

西南学院は1916(大正5)年、米国南部バプテスト派の宣教師C.K.ドージャーによって創立されました。1949(昭和24)年には新制大学を開設し、今では幼稚園、保育所あわせて約1万人の学生・生徒・児童・園児が学ぶ総合学園に発展しました。

創立者の遺訓“Seinan, Be True to Christ”(西南よ、キリストに忠実なれ)は、建学の精神として受け継がれ、現在もキリスト教を教育の基本理念とし、深遠な学術研究とそれに立脚した教育を基盤に、学術文化の向上に寄与するとともに、地域、日本、そして世界に貢献できる教養豊かで深い専門知識と創造性を備えた人材を育成しています。



西南学院創立者 C.K.ドージャー

I 教育の理念とアドミッション・ポリシー(求める学生像)

神学部

神学科

教育の理念

神学部は、聖書やキリスト教思想・哲学・芸術を中心とする学びを通して、キリスト教精神の本質を究明するとともに、この精神を担い、日本、そして世界の精神文化の形成、倫理・道徳の向上、平和と福祉の促進に貢献する人間を育成するために、「神学コース」と「キリスト教人文学コース」の2コースを置き、キリスト教界の指導者、教会の伝道者・牧師などの専門職業人、並びにキリスト教精神を基盤として社会に貢献する人を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

神学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 神学コースは、キリスト教界における指導的な役割(伝道者・牧師、宣教師、教会主事など)を明確な目標に置く者。
- (2) キリスト教人文学コースは、幅広い教養を身に付け、社会奉仕の精神を持つことを目指す者。
- (3) 両コースに共通のこととして、基礎的な学力を有し、歴史的、人文・社会的、国際的な文化への関心のある者。

2. 選抜方法

神学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試)
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。
- (2) 特別選抜(総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)
総合型選抜入試では、小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。
推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得し

たと認められる生徒の推薦を求める。また、神学部独自の指定先として、キリスト教学校教育同盟加盟高校及び日本バプテスト連盟加盟教会から、神学部での学びに強い意欲と理解をもった者の推薦を受け入れる。推薦入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

文学部

教育の理念

文学部は、英語とフランス語に関する語学的知識の修得や実践的運用能力の養成を重視し、言語の本質や機能、英語圏やフランス語圏の文学・文化・社会のあり方、人間関係、等について豊かな識見を養うことによって、グローバルな視野に立って日本のみならず世界で活躍できる人材の育成を目的とする。

この目的のもとに、「英文学科」、「外国語学科英語専攻」、「外国語学科フランス語専攻」を置き、異なった社会・思想・人間のあり方を多様な観点から総合的に理解しつつ自己認識を深め、幅広い教養と高い見識、旺盛な知的好奇心、自発性と創造性、等を涵養するよう努める。

英文学科

教育の理念

英文学科は、英語、英米文学・文化の教育・研究を通して、実践的な英語運用能力、広く深い教養と専門知識、豊かな感性と想像力、等を陶冶することに努め、グローバル化した社会の要請に応じうる人材を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

英文学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 英文学科のカリキュラムが提供する講義に積極的に参加できる者。
- (3) 英語の習得に高い関心を持つ者。
- (4) 英語圏の文学・文化、社会について知的好奇心を持つ者。

2. 選抜方法

英文学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、更に基準点を設けることにより、英文学科において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。

- (2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

総合型選抜入試では、小論文と面接を課し、面接においてはグループディスカッションも含むものとして、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英文学科においては、更に英語の評定平均値や資格・検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、特に英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

外国語学科 英語専攻

教育の理念

外国語学科英語専攻は、英語学・英語教育、コミュニケーション学、ビジネス英語、言語文化を教育・研究の柱とし、実践的な英語運用能力の育成を図るとともに、英語と文化や社会との関係を認識する能力を養い、英語の特性を科学的に分析する能力を涵養し、その研究成果を教育に活かす能力を育成し、社会の発展に寄与する自発的で創造性豊かな人材を育てることを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

外国語学科英語専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 英語の基礎力を修得し、英語学習に積極的に取り組める者。
- (3) 異文化の他者と積極的にコミュニケーションする意欲を持つ者。
- (4) 自らの人間関係に関する好奇心と向上心を持つ者。

2. 選抜方法

外国語学科英語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般選抜のすべての入試において英語の配点比率を高くし、更に一般入試では英語に基準点を設けることにより、英語専攻において専門知識を修得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。

- (2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、指定校選抜入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

総合型選抜入試では、高水準の英語能力を有することを出願条件とし、入学後にその能力を積極的に活用し、他の学生に刺激を与えることを期待している。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求めるが、英語専攻においては、更に英語の評定平均値や資格・検定試験のスコアなどを出願資格に加えることにより、英語に興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。受験者には、小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人のための入試を実施する。一定の語学力を有することを出願要件としたうえで、日本語による作文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

外国語学科 フランス語専攻

教育の理念

外国語学科フランス語専攻は、実践的なフランス語運用能力の育成を基礎として、より総合的で創造的なコミュニケーション能力の修得へと導きながら、言語を取り巻く社会や文化のありようを理解し、自己と異なる他者を発見してこれと積極的に対話を行い、国際化・情報化する世界の中で知的行動力をもって活躍しうる人材を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

外国語学科フランス語専攻は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 新しい言語にチャレンジする意欲のある者。
- (3) フランス語とフランス語圏の文化に高い関心をもつ者。
- (4) コミュニケーションを通して他者の存在を発見し相互理解を志向する多文化的想像力をもつ者。

2. 選抜方法

外国語学科フランス語専攻では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

総合型選抜入試では、小論文とグループディスカッションを課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、フランス語専攻独自の指定先として、フランス語又は英語以外の外国語を正課授業として開講する高校からの推薦を受け入れ、フランス語専攻での学びに強い意欲と理解をもった者を評価する。推薦入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

の教育と研究を通じて、商取引に関する正しい理解を深めさせる。モノとカネの効率的配分や円滑な流通を目的とする商学と企業成果の計算・公表を目的とする会計学について教育することで、問題設定能力とその解決能力を有するとともに、経済社会に柔軟に対応でき、かつ、高い倫理観と高度な専門知識を身に付けたビジネス・パーソンの育成を目指す。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

商学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者。
- (3) 商学や会計学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者。

2. 選抜方法

商学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、公募制推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、公募制推薦入試では、日商簿記検定や全商簿記検定などの資格取得を出願資格に加えることにより、商学科での学びに強い興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

商学部

教育の理念

商学部は、建学の精神に基づいて、高い倫理観と深い思考力を備えたビジネス・パーソンの育成を目的とする。具体的には、キリスト教学・商学・会計学・経営学・経営情報学の分野における高度な学術理論の教育と研究を通じて、経済社会に生起する問題の本質を正しく認識し、高度な倫理観に支えられた論理的な思考力をもって、新たな環境を積極的に創造する志の高いビジネス・パーソンを育成することで、広く社会への貢献を目指す。

商学科

教育の理念

商学科では、商学と会計学の分野における高度な学術理論

経営学科

教育の理念

経営学科では、経営学と経営情報学の分野における高度な学術理論の教育と研究を通じて、企業経営に関する正しい理解を深めさせる。現代の経済活動の重要な一翼を担っている企業の経営について、思想・戦略・組織・ヒト・モノ・カネ・情報・国際・環境などの観点から多面的に教育することで、高度な倫理観・理解力・構想力・表現力及び対人関係形成能力を備えた優れたビジネス・パーソンの育成を目指す。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

経営学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 高度な倫理観に支えられた問題意識を持つ旺盛な知的好奇心のある者。
- (3) 経営学や経営情報学などの諸領域について広範かつ専門的な知識の学修を通じて、自らが立てた将来の目標の実現を図る志の高い知的柔軟性のある者。

2. 選抜方法

経営学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜（指定校推薦入試、公募制推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、公募制推薦入試では、ジュニアマイスターや情報技術検定などの資格取得を出願資格に加えることにより、経営学科での学びに強い興味を持ち、その能力を維持発展させる意欲のある者を評価する。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

経済学部

教育の理念

経済学部の理念は、経済学の基本的知識と特有の思考法を基礎とした、現代社会を生き抜く力の涵養であり、教育の目的は、社会における重要問題の所在を自ら発見し、それに関して必要となる事項を自ら調べる能力、そして、その結果を簡潔かつ明瞭に報告し、さらに問題に的確に対処できる能力を身に付けさせることを基礎として、社会の変動を正確に理解し、その展開過程に積極的に参画できる企業人、公務員その他の社会人を養成することにある。

経済学科

教育の理念

経済学科は、経済学の理論体系、実証分析、政策分析、経済の歴史的分析及び現実経済の把握に関する諸分野の科目を有機的かつ総合的に教授し、日本と地域社会を中心とした経済の仕組みの論理的構造と実態とを理解させるとともに、

データを科学的に分析し、先入観にとらわれない合理的結論を導き出す経済学的思考方法を鍛錬することによって、種々の経済社会問題に対する実践的解決法を見出す能力を有する人材を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

経済学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 基礎学力を身に付け、社会問題を分析する能力を持ち、経済学科への入学を強く志望する者。
- (2) 現代世界で起きている様々な政治的・経済的・社会的な諸問題に関心を持ち、論理的な判断力をもってその解決を目指そうとする意欲を持った者。
- (3) 日本や世界の歴史や現状に強い関心を持ち、未来を展望する視点を持つ者。

2. 選抜方法

経済学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかどうかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、合否判定に利用する科目として大学入試センター試験から必ず数学を選択するなど、経済学科において専門知識を修得するための数学的能力を有しているかどうかを評価する。

- (2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

総合型選抜入試では、受験者の基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性、そして本学での学修の意欲を、調査書および出願者作成の書類（学修計画書、活動報告書、志望理由書等）の審査、講義にもとづく試験、そして面接によって、多面的・総合的に評価して判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心のみならず、知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

- (3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心のみならず、知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際経済学科

教育の理念

国際経済学科は、先入観にとらわれない合理的な経済学的思考方法の研鑽に加えて、国際社会の変化と国際経済及びビジネスのグローバル化の諸現象と相互の関連性、並びにそこから派生する諸問題の分析手法と対処方法立案の考え

方を教授し、歴史・伝統・習慣・文化・宗教等の異なる諸外国との交流に役立つ語学力を基礎とした幅広い国際感覚を養成することによって、社会の国際化に寄与しうる人材を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

国際経済学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

(1)基礎学力を身に付け、社会問題を分析する能力を持ち、国際経済学科への入学を強く志望する者。

(2)現代世界で起きている様々な政治的・経済的・社会的な諸問題に関心を持ち、語学力を基にその解決を目指そうとする意欲を持った者。

(3)日本や世界の歴史・伝統・文化を理解し、海外経験を通じて国際的な教養を身に付けたいと強く望む者。

2. 選抜方法

国際経済学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1)一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試(前期・後期)、一般・センター併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかどうかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、可否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を選択するなど、国際経済学科において専門知識を修得するための語学力を有しているかどうかとも評価する。

(2)特別選抜(総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)

総合型選抜入試では、受験者の基礎的な知識や技能、思考力・判断力・表現力、主体性や協調性、そして本学での学修の意欲を、調査書および出願者作成の書類(学修計画書、活動報告書、志望理由書等)の審査、講義にもとづく試験、そして面接によって、多面的・総合的に評価して判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心のみならず、知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3)その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心のみならず、知識・技能、思考力・判断力・表現力を総合的に評価して判定する。

法学部

教育の理念

法学部は、法学及び政治学の専門学智を基礎に、多様な価値観の理解と、批判的思惟の力を育み、変容する現代社

会の秩序構成に寄与できる識見を養うことを目的とする。

法律学科

教育の理念

法律学科は、法学及び政治学の専門学智を修め、怜悯な識見を養うとともに、多様な価値観への理解を促し、公共の精神の涵養に努め、変容する現代社会に対する批判的思考力を育み、多方面にわたる社会活動に貢献できる人格の育成を図ることを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

法律学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備え、かつ、大学での学修に必要な基礎学力を有している者を求める。

(1)法学・政治学の専門学智、多様な価値観の理解、及び批判的思惟の力を修得できる学習力を有する者。

(2)現代社会の動態をみつめ、あらたな秩序構成に寄与できる識見を修得できる学習力を有する者。

(3)多方面にわたる社会活動に貢献することに意欲的な者。

2. 選抜方法

法律学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1)一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試(前期・後期)、一般・センター併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、可否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を、大学入試センター試験から数学を採用するなど、法律学科において専門知識を修得するための語学力及び数学的思考力を有しているかも併せて評価する。

(2)特別選抜(総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)

総合型選抜入試では、高等学校3年次でも数学科目を履修していることを出願資格に加えることにより、数学的思考力を有する者を評価する。受験者には小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。推薦入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3)その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

教育の理念

国際関係法学科は、社会の国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を養い、普遍的な視野と共生の精神の涵養に努め、多様な活動の場において国際共同社会の課題に取組み、異文化交流に貢献できる人格の育成を図ることを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

国際関係法学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備え、かつ、大学での学修に必要な基礎学力を有している者を求める。

(1) 法学・政治学の専門学習、多様な価値観の理解、及び批判的思维的力を修得できる学習力を有する者。

(2) 変容する国際社会の秩序構成に寄与できる識見及び国際化に起因する諸現象を法的・政治的観点から学術的に深く掘り下げて理解しうる識見を修得できる学習力を有する者。

(3) 多様な文化を受容し、異文化交流に貢献することに意欲的な者。

2. 選抜方法

国際関係法学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、合否判定に利用する科目として一般入試から必ず英語を、大学入試センター試験から数学を採用するなど、国際関係法学科において専門知識を修得するための語学力及び数学的思考力を有しているかも併せて評価する。

(2) 特別選抜（総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試）

総合型選抜入試では、高等学校3年次でも数学科目を履修していること、英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力や語学力を有する者を評価する。受験者には小論文と面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。推薦入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜（外国人入試、帰国生入試）

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

教育の理念

人間科学部は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて、幅広く高い教養と人間に関する諸分野の学術的成果を習得させることによって、人間の生涯に亘る成長と発達についての深い理解、他者を受容し共感する能力、ならびに地域社会、わが国と世界についての主体的思考力と総合的な判断力をもった個人を育成するとともに、とりわけ教育、保育、福祉、心理の各分野において優れた働き手として貢献しうる専門家を養成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

(1) 広く人や社会について学ぶことのできる能力と十分な基礎的知識と一定の学力水準を有する人。

(2) 将来保育・教育・福祉・心理の現場で学ぼうとする意欲があり、かつ一定の総合的学習能力を有する人。

(3) 人とのコミュニケーションに関心があり、倫理性に優れ、かつ一定の総合的学習能力を有する人。

以上の観点から、入学者選抜には、一定基準以上の多様な方法を持つ入学試験による選抜、および一定基準以上の成績を持つ学生の高等学校推薦による入学試験を行い、保育・教育・福祉・心理に関わる希望を持つ多様な資質を持つ学生を受け入れる。

児童教育学科

教育の理念

児童教育学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行い、教育・保育の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、これらの分野の専門家である保育士、幼稚園教諭、小学校教諭などを養成するとともに、これらの専門的知識と技能を活かして社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

児童教育学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

(1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。

(2) 自分をとりまく諸世界（人間・社会・自然など）について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識を有する者。

(3) 将来、保育・教育の現場で活動することに意欲を持ち、その活動に幅広く関わる内容への基本的な学習能力を有する者。

(4) 社会性、規範意識があり、人や社会に関わることに意欲的な者。

2. 選抜方法

児童教育学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1) 一般選抜（一般入試、大学入試センター試験利用入試（前期・後期）、一般・センター併用型入試）

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入試センター試験から必ず数学または理科を採用することなど、児童教育学科において専門知識を修得するため

の理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

(2)特別選抜(総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)

総合型選抜入試では、英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、語学力を有する者を評価する。出願時の学修計画書等により書類選考を行ったうえで、グループディスカッション及び面接を踏まえ、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、受験者には小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3)その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

社会福祉学科

教育の理念

社会福祉学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行い、社会福祉の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、これらの分野の専門家である社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などを養成するとともに、これらの専門的知識と技能を生かして社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

社会福祉学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1)大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2)人と環境について学ぶことに関心をもち、基本的な学習能力を有する者。
- (3)将来、社会に貢献する意欲をもち、特に社会福祉分野に自らの課題を見出せる者。
- (4)地域や社会に参画する能力が高く、倫理規範を備えた者。

2. 選抜方法

社会福祉学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1)一般選抜(一般入試、大学入試センター試験利用入試(前期・後期)、一般・センター併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

(2)特別選抜(総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)

総合型選抜入試では、高校時の諸活動を評価する活動実績型AO入試と、社会人としての活動や経験を評価する社会人対象AO入試を実施する。受験者に小論文と面接を課し、出願時の学修計画書や職務経歴書等も含めて、受験者の知識・

技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、社会福祉学科として独自に、福祉科、介護福祉科等を設置する高校から福祉関係コースで学ぶ生徒の推薦を受け入れ、社会福祉学科での学びに強い関心を持ち、高校での学びを維持発展させる意欲のある者を対象とする。推薦入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3)その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

心理学科

教育の理念

心理学科は、キリスト教主義による人間教育の理念に基づいて教育を行い、心理学の分野に関する専門的知識と技能の習得を通じて、様々な事態において人の心を科学的に調査および分析できる専門的な知識技術をもつ人材を養成するとともに、人間関係調整能力等をもち、応用力を備えた人材を育成し、グローバルな視点から社会に貢献しうる人間を育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

心理学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1)大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2)自分をとりまく諸世界及び人間について学ぶことに関心を持ち、それらに対する基礎的知識を有する者。
- (3)将来、心理の知識を活かして社会に貢献する事に意欲を持ち、自らの課題を見いだせる者。
- (4)対人関係の支援に必要なコミュニケーション能力を身に付けることに意欲的な者。

2. 選抜方法

心理学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

(1)一般選抜(一般入試、大学入試センター試験利用入試(前期・後期)、一般・センター併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。また、一般・センター併用型入試では、合否判定に利用する科目として、大学入試センター試験から必ず数学または理科を採用することなど、心理学科において専門知識を修得するための理数的能力を有しているかについても併せて評価する。

(2)特別選抜(総合型選抜入試、指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)

総合型選抜入試では、数学科目の履修や英語の資格・検定試験のスコアを出願資格に加えることにより、数学的思考力及び語学力を有する者を対象とする。受験者に講義に基づく試験、グループディスカッション及び面接を課し、出願時の学修計画書等を含めて、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を総合的・多面的に判定する。

推薦入試では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。推薦入試では受験者に小論文と面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

特別選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。また、指定校推薦入試では、国語の評定平均値を出願資格に加えることにより、国際文化学科において専門知識を修得するための国語力を有する者を評価する。特別選抜入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際バカロレアAO入試では、受験者に面接を課し、出願時の志望理由書を含めて、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

(3) その他の選抜(外国人入試、帰国生入試)

多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人及び帰国生のための入試を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、外国人入試では日本語による作文と面接、帰国生入試では日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の意欲・関心、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。

国際文化学部

国際文化学科

教育の理念

国際文化学部は、人類が今までに生み出し発展させてきた古今東西の文化を、地域文化、比較文化及び表象文化の視点から歴史的・総合的に捉え、地域と世界、文化と芸術に関する専門的知識と国際的かつグローバルな視野を持つことにより、地域社会及び国際社会に貢献し、現代世界において活躍する職業人及び文化の継承・発展と新たな文化の創造をなしうる学者・芸術家などを育成することを目的とする。

アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

国際文化学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

- (1) 大学での学修に必要な基礎学力を有している者。
- (2) 広く文化、社会、歴史について学ぶ積極的な意欲を持ち、その獲得のための基礎知識並びに一定の学力がある者。
- (3) 国際的関心を有し、思索に富み、異文化理解に積極的に関わることが出来る者。
- (4) 価値観の多様な社会の中にあって将来も自己を失わずに積極的に活躍できる者。

2. 選抜方法

国際文化学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜(一般入試、大学入試センター試験利用入試(前期・後期)、一般・センター併用型入試)

高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価して判定する。

- (2) 特別選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試、国際バカロレアAO入試)